

(中間評価)

国際サステナブル科学リーダー育成システム

(実施期間：平成 22～26 年度)

実施機関：広島大学（総括責任者：浅原 利正）

プロジェクトの概要

循環型持続的社會基盤の形成に貢献する「サステナブル科学」研究分野の国際拠点の構築を目途に、革新的かつ創造的に研究・教育を展開できる若手リーダーの育成を目指して、テニュアトラック制度を導入する。

国際公募で選考されたテニュアトラック講師は、独立した研究環境の下で協力大学院研究科や研究グループの支援を受けて当該課題に挑む。第三者機関であるテニュアトラック評価委員会（外部委員を含む）は、テニュアトラック講師の選考やテニュア審査過程、並びにテニュアトラック制度の定着状況を評価する。その評価結果を受けて制度設計を再検討し、広島大学型の若手人材育成システムを確立する。

(1) 評価結果

総合評価	国際公募・選考・業績評価	人事養成システム改革 (制度設計に基づく実施内容・実績)	人事養成システム改革 (制度設計に対するマネジメント)	今後の進め方における取組
A	a	a	a	a

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

(2) 評価コメント

研究レベルの高い分野を活かし、持続発展可能な社会を構築するために必要な「サステナブル科学」分野の国際拠点となることを目標とし、テニュアトラック制（以下「TT 制」という。）を活用してこの分野での若手リーダーの育成を目指している。機関が目指す学際融合領域を明示し、求めるテニュア像が明確に示されていることは評価できる。継続性を考慮して各年度 2 名を国際公募し、優秀な人材を採用しており、独立した研究室などの支援体制の下、着実に育成していることは評価できる。採用者に占める割合として目標としている、外国籍研究者と女性研究者のそれぞれ 20%採用に向けた今後の努力を期待する。

テニュア職への採用にあたって、学長裁量の人事ポイントを配属先部局に一定期間配分するという特徴ある制度を取り入れ、部局がテニュアトラック若手研究者（以下「TT 若手」という。）を受け入れやすい制度設計となっていることは評価できる。テニュア資格付与後に TT 若手が希望する部局へ円滑に配属される制度設計とその適切な運用を期待する。また、TT 制の全学展開を目指し、全学規程の制定が進められており、部局管理の人事ポイントを用いる TT 制について、早急に各部局で明確な制度設計を進めることを期待する。

- **国際公募・選考・業績評価**：選考基準を明確にした審査体制が確立され、海外からの応募も多く、毎年2名の優秀なTT若手を採用していることは評価できる。今後は、目標とする外国籍研究者及び女性研究者の採用数の達成を期待する。
- **制度設計に基づく実施内容・実績**：TT若手の自立的な研究環境は人的支援も含めて整備されており、教育能力などの育成のための制度設計がなされている。メンターの選任・配置も工夫し、また、研究支援者の配置も当初の計画以上としていることは評価できる。
- **制度設計に対するマネジメント**：テニュアトラック評価委員会による外部評価を受け、PDCAサイクルに反映し、本プロジェクトにおける課題の改善を踏まえたテニュアトラック制の構築、推進を図っていることは評価できる。
- **今後の進め方における取組**：TT制の全学展開を図るため、部局型の検討が進められていることは評価できる。部局型の具体的な制度設計を早急に行い、各分野の特徴を踏まえたTT制の定着を期待する。